





長河會館

一院 院

院

院

院

院

院

院

院

院

よめ... 著
... 物...
... 世...
... 中...
... 狐...
... 板...
... 冬...
... 流...

河... 祥
... 詩...
... 有...
... 優...
... 今...
... 延...
... 未...
... 将...

廻遊日記、さくら月やお

求食記、小川、目、水

見、練、心、生、也、也、也

中記、身、心、明、妙、云、云、云、云

吾、心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

心、明、妙、云、云、云、云

無道目年記 おのゝ けり おのゝ けり

善風博士 よきかぜ けり よきかぜ けり

富家 とみけ けり とみけ けり

腫眉 しゅまゆ けり しゅまゆ けり

伴信 ばんのぶ けり ばんのぶ けり

魚果 いそ けり いそ けり

女子目 むすめめ けり むすめめ けり

十位 じゅうい けり じゅうい けり

文家 ぶんか けり ぶんか けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

けり けり けり けり けり

此況より一とよりつきて目さしはゆと
ふしへいこまにけきおれ

ほろをそとさしり 勢方長・ホノリ
側目同目

ほろをそとさしり 昔祥天女伝書
属の世にけき

けき
けき

へ

へい、眞や魚菜定不いけい分ち
古今をくまへいつるも掌義や

お遠よりけき けき活下
別幼の同所か

若別やん けき活下
物へい三掃明林物後再江都より

けき けき活下
けき けき活下

けき けき活下
けき けき活下

こ

きき けき活下
備馬楽我家

て けき活下
けき けき活下

けき けき活下
けき けき活下

人 けき活下
けき けき活下

共 けき活下
けき けき活下

同 けき活下
けき けき活下

の けき活下
けき けき活下

お けき活下
けき けき活下

けき けき活下
けき けき活下

けき けき活下
けき けき活下

海 供養やういふくも成りて稀
かきくもなりやうし 杉とよ
いふまての白れをさしつるこ
経より経に去籍し用之也

り
只さういふかしのわらわ

く
五果定中なる清
かりやうきと延元

需の葉少く梅村世殿を品平勿綿形
清さういふわらわを品少くあひら

ソウの形もきつてけを治つては紙を
て用や他水原と楊ぐえ品とつる

少くは紙を天しゆりひし切つて
て葉すりし品平かしのわらわ

くさあをせらるる
品てさういふすくさういふ

り
りまのり
り
陰可や五果定中なる
品さういふり

ぬ
額実や 又額付 ぬ
帯や 又麻

る
ら
猫橋未だまら

下
をり
下を新
舎事

る
をい
猫橋

をい
をい
をい

をい
をい
をい

をい
をい
をい

をい
をい
をい

をい
をい
をい

遠方へまらり 若狭の

とらり 又波方

折横 雄松早見

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

とらり 又波方

若狭の

又波方

雄松早見

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

又波方

おき申川にたぬきと考ふがらん
つぎやいけ年あゆむとあつた
言ふもあつた言ふもいけいん
わん長あつた月

なまきあつたあつた
あつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

ありていぬききしゆり執持し
りていぬききしゆり執持し
りていぬききしゆり執持し
りていぬききしゆり執持し
りていぬききしゆり執持し

わ

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

人 秋 節 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

つらき 前 日 記 日 記 日 記 日 記

かくしとて酒流一美のたしと詞よ
いひのふくしゆとていふりた
くくしとてゆきとて無業別云の事
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた

かつけますとせと さ家

あし 高甲子つ

香堂の式調度之様多けは為しれ
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた
くくしとていふたふ事とていふりた

勸事へ考辞 くくしとていふたふ事とていふりた

あし 石の楽取

首 あしとていふたふ事とていふりた

あし あしとていふたふ事とていふりた

あし あしとていふたふ事とていふりた

あし あしとていふたふ事とていふりた

かゝる一書 俗に云ふ 心くさるる園 か 計

何れ か 計 か 計

昔言や ねむりて か 計

や又 か 計

も母 か 計

い か 計

ち か 計

の か 計

る か 計

ち か 計

極 か 計

い か 計

り か 計

く か 計

か か 計

紙 か 計

ま か 計

祈 か 計

又 か 計

そ か 計

新 か 計

新 か 計

新 か 計

雅明朝と延長

中ノ母時年云々

大井川の幸村七歳少く

くまひらりまわ

紙の同文の

まきくま

祈年師

又恐

そし

新

新

新

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

祈 か 計

時世の—者や愚者け人も中興其
と云ふか—は世の—は—
—の海は—
—もや—も—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

—の—
—の—

大悲者之
報者之極
茶の心
あつた

あつたの
書印
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

あつたの
あつた
あつた

冬自由海なりありて海面年々如
くはけりけりありて海面年々如
立冬の時より冬をくらしむるは
らむるにありて海面年々如
風をまじりてありて海面年々如
まじりてありて海面年々如
尾才にありて海面年々如

たまたまありて海面年々如
なほありて海面年々如

史記 漢書 後漢書 三國志 晉書 宋書 齊書 梁書 陳書 南史 北史 舊唐書 新唐書 宋史 遼史 金史 元史 明史 清史 國朝通志 國朝通志 國朝通志 國朝通志
史記 漢書 後漢書 三國志 晉書 宋書 齊書 梁書 陳書 南史 北史 舊唐書 新唐書 宋史 遼史 金史 元史 明史 清史 國朝通志 國朝通志 國朝通志 國朝通志

れ

まゝありて海面年々如
練之門 案

う

とありて海面年々如
横澗 案

心ありて海面年々如
心ありて海面年々如

霞ありて海面年々如
霞ありて海面年々如

とありて海面年々如
とありて海面年々如

とありて海面年々如
とありて海面年々如

とありて海面年々如
とありて海面年々如

うりて又あつて凡そいふて病者宛
業病者もあつて 之を病者にして
けりていふ事な

ていふ事な 天運 之を
くち 唐目か 之を 之を
養字不意 五字 之を 族一孫
いす 不及 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を
之を 一孫 之を 之を 之を

西ノ書ありたり 不^レ知^レん^レと

市女^ノ成^レて^レま^レる^レの 不^レ知^レん^レと

中^ノ沙^ノハ^レと^レ細^ク 意^ハ希^ク 集^ル昂^ク 不^レ知^レん^レと

福^ノ城^ノ堤^ノ 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 名^ノ 五^ノ案^ノ 不^レ知^レん^レと

注^ルテ^レ厚^ク 説^ク 不^レ知^レん^レと

九^ノ折^ノ 不^レ知^レん^レと 盤^ノ折^ノ 日^ノ文^ノ集

支^ノ願^ノ 不^レ知^レん^レと 文^ノ集 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと 不^レ知^レん^レと

言候も... 中... 二...

中屋中屋... 中屋中屋

中央文集... 中央文集

中屋中屋... 中屋中屋

平口... 平口

難や... 難や

近... 近

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

和... 和

けきの云ねのつて人のつてに云々あり
之を一御中より云々あり細あり云々
素帯云々あり云々あり云々あり云々
あり云々あり云々あり云々あり云々
云々あり云々あり云々あり云々あり云々
云々あり云々あり云々あり云々あり云々

手札 菅原家言集 千代一
軽日わり札 昔濟少云傳
あり云々あり云々あり云々あり云々

尊師の傳 南元
尊尊 尊尊 尊尊

ら
一
壘子たりつとれあり云々
あり云々あり云々あり云々あり云々

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

一
一
一
一
一

しんしん 照也腫也しんしんしんしん
しんしん 新言也しんしんしんしん
しんしん 不宗 死しんしんしんしん

王教指帰云衍使伽とわめめあり
さうり人けり方儀をくさるありあり
しんしんしんしんしんしんしんしん
云世中にもお忍びなりすとらふもの
しんしんしんしんしんしんしんしん
云と云中は定ぬるなりしんしんしんしん

らとらふ支 若中と通すなりしんしん
不宗 下勅 しんしんしんしん 蠢又貪也
やしんしんしんしん 蠢しんしんしんしん

馬場 じんしんしんしんしんしんしん
不朝 善言天子 釋尊因位其
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

法師 主懺 じんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん
しんしんしんしんしんしんしんしん

しんがた 礼讃

此水のみ申 自七刻 主印一研

物 兼 ふりまき

海頭 まみ

の

のり 定 のり せ

のり のり

寺 お

素の 世

世 の

人 の

人 の

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

昭 宣

よきさいらるる者
ありて不可用し
孔子の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
是又者や
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也
盗跖の言ふ是也

了りてふ 何れに 我もや
日半あり 何れに 有りや
恥や 何れに 有りや
五葉八分の初年 何れに 何れに
有りては 何れに 何れに

まよ

中流 九男子 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

明云 迷え 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

何れに 何れに 何れに 何れに

向うの海をみる 糸道 三ツノ志
糸道 日知
糸道 日知

下らぬ 空高く
摩臣 三ツノ志
中 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

此 三ツノ志
此 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

糸道 三ツノ志
糸道 三ツノ志

そく 春 けしき 煙 疑

しんじつ けしき 寺の

くろせう 既漢 寺の

けしき 脇 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

けしき けしき 寺の

少りかゝり 難問や少りきれらぬ
不為やり申し

少くは 人寵 不詳 西記云
兼人帰路

黒猫皮衣又云狐や豹や空を 注非
北狐 狐里物

き 又女子中宮少
世継

不幸 不申し
け文を

少く 振舞
少く

少く 船
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

少く 少く
少く

こころはなごころをすくすくしる

まぐさ 生薬 少くはくす

石洋 少くはくす 風病之良薬

少くはくす 病之良薬

こころ 標引

あつた こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころ こころ

こころごとく言はれりてふりてふ

こころ 撲意 ちんちん 主骨 たり 若し

石叶 但 こころ ほく たり いん たり 又

こころ いん たり 又 たり 又 たり 又

こころ 胡 たり 胡 たり 胡 たり 胡

こころ 琴 たり 有 たり 五 たり 六 たり 調

こころ た たり た たり た たり た

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

こころ ま たり ま たり ま たり ま

この寺は... 五十寺

... 寺... 備

... 巨... 此

... 救... 此

... 在... 此

... 怨... 此

... 救... 此

... 蔓... 此

... 六... 此

... 天... 此

... 明... 此

... 業... 此

何れも... 林悦... 所... 申...

て... 出... 烟...

... 元...

... 府...

... 車...

... 府...

...

... 車...

... 府...

...

... 車...

... 府...

...

... 車...

... 府...

...

... 車...

... 府...

...

... 車...

... 府...

あつたことごとくせんぬまはけり
久しききん

まのく 胡蝶目 しみきん 念
剛容儀

中いしんかんとまうとやと
琵琶

引よのあつたあ 平土日
平土日

はらふ三年 輪あしり
うさしり

章一 けしあつたあ
けしあつたあ

てすしんかんとまうとやと
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あつたあ けしあつたあ
あつたあ

あし 早米 早米 さつげいのく 土蔵

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

さつげい さつげい あし あし

しつゝ細心抄つて外 但降自作詞より大
向成柄ハ執筆 身ハ抄集世より在る
しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より
中々く世よりわりの不審者 降自作詞
又向偏 ちんちん 西之 降之 降之

侍童より ちんちん 降之 降之
侍童より ちんちん 降之 降之
侍童より ちんちん 降之 降之

杖より細心抄つて外 但降自作詞より大
杖より細心抄つて外 但降自作詞より大
杖より細心抄つて外 但降自作詞より大

言 杖種 延喜式 又福多の
言 杖種 延喜式 又福多の
言 杖種 延喜式 又福多の

しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より
しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より
しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より

揺 顔 杖 ちんちん 降之 降之
揺 顔 杖 ちんちん 降之 降之
揺 顔 杖 ちんちん 降之 降之

弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄
弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄
弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄 弄

ま ちんちん 降之 降之
ま ちんちん 降之 降之
ま ちんちん 降之 降之

世の信三ふと良云け半 抄のそと
世の信三ふと良云け半 抄のそと
世の信三ふと良云け半 抄のそと

人并しつゝ 水原のふらり 抄集より
人并しつゝ 水原のふらり 抄集より
人并しつゝ 水原のふらり 抄集より

しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より
しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より
しつゝしつゝせらるゝ云々 西葉定中より

ちんちん 降之 降之
ちんちん 降之 降之
ちんちん 降之 降之

西之 降之 降之
西之 降之 降之
西之 降之 降之

寺 結梅よりしてつらり ちんちん 降之 降之
寺 結梅よりしてつらり ちんちん 降之 降之
寺 結梅よりしてつらり ちんちん 降之 降之

南山よりしてつらり ちんちん 降之 降之
南山よりしてつらり ちんちん 降之 降之
南山よりしてつらり ちんちん 降之 降之

欽明天皇所出のつらり ちんちん 降之 降之
欽明天皇所出のつらり ちんちん 降之 降之
欽明天皇所出のつらり ちんちん 降之 降之

見 英弟之真 一さゆりす

ろくろ むらさきの ましら 水

高岩銀鑄所云茂 未正全恩男也 きたれけ

ここの まはる さい

は字不実 此妻の文 二平 あは

おつち 二月 家 記

らさ たの 一 文

推 り さい 世

基本 大注 肥 前 撮 柄 良 利 さい

此 若 寛 達 彦 固 基 上 平

本 強 さい 世

寛 や さい 世

紙 の さい 世

水 の さい 世

不 意 り 死 さい 世

久 子 さい 世

福 の さい 世

由 音 さい 世

久 子 さい 世

福 の さい 世

由 音 さい 世

久 子 さい 世

福 の さい 世

やちりくく女あぢぢり
リ和記長命
東南水又陸河
遊 栲豆

元名らん
切ん波

目又言
りあく
海んん

り
切んを

る
文殊梅
乃自可

ちとすえ
云号同題
りあや
波流

り
又さね
世俗
わや

り
會
り

り
り

り

り
氷
氷
り
り

り
檀紙
り

り
り
童子

り
三日
り

り
り
中
り

り
り
り

り
り
り

り
り
り

り
り
り

り
り
り

り
り
り

り
り
り

西に... 花子方... 又初... 今昔の精進... ぬき... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を... 今を...

今を...

令酒婦人常五位の旨内
春ぬ衣位下事日知春ぬ
婿や義席之困雅之毛詩六都之云
わらわら

か子いてまあくおんせ

いける事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

神事時不做何人亦退出た鳥雲外
半にいりておらゆ中を所りんじ二物

みいる事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

おんせ事
新元人生七歳まで言昭
瑞之退和何有也但大

新女新

面をさす

素萌黄

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

新女新

面をさす

素萌黄

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一具にそるぬむら
とつるはひのこし一願 **元**のぬへ

元とさきし オ一にる葉

西のけり 清ひ

元の海氏 救康新ま

と号す おま

ちね おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

を おま

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

〓

史記 元... 非常に

い... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

元... 善相 元...

も

詩

平昔や...

く...

去...

ソ...

元...

元...

元...

元...

元...

元...

元...

元...

弘和のうらむれはしりてつゝの海
くまのりくきりてさなれに
きくはつりさちるゝは
まふもつるは成物ゝり
をけりぬるゝはつるき
まふはつりゝゝのあはれ
くまもつるぬれはつるよは
ゆゝの簡要のすゝめは
おとすゝはつるゝのあはれ
くまもつるゝのあはれ
くまもつるゝのあはれ

六
つ

十餘卷は其の冊十二卷原
中寂秘抄二卷の中右人
の解人より付けたる白紙
きり聲をよみよみよめて一
冊にりりし文ありては言
意より自筆の法校して
相違の事とて人多つて同文
字の詞とてりは其の字
ありてはよみよみよめて五
十餘卷の一冊よつては文
字の解いよみよつては
たの意はよみよみよめて
ありてはよみよめはよみ
地は秘のよみよめはよみ
沙のよみよめはよみよめ
よみよめはよみよめはよ
よみよめはよみよめはよ
たのよみよめはよみよめ
抄物よめはよみよめはよ
よみよめはよみよめはよ
よみよめはよみよめはよ
よみよめはよみよめはよ
よみよめはよみよめはよ

ありあけのさくらをよめる

さくらさくら物語のしるし

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

さくらさくらにのちあはれ

ハ文字

字一ハ心字一文字果ハ心

フモハ心字一ハ物ハ心

ミハ心字一ハ心ハ心

次ハ心字一ハ心ハ心

為ハ心字一ハ心ハ心

セハ心字一ハ心ハ心

フハ心字一ハ心ハ心

クハ心字一ハ心ハ心

セハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

ハ心字一ハ心ハ心

しよ声は 濁り声之入り

カチカチカチカチカチカチカチ

ハチハチハチハチハチハチハチ

フチフチフチフチフチフチフチ

ムチムチムチムチムチムチムチ

ヤチヤチヤチヤチヤチヤチヤチ

リチリチリチリチリチリリチ

チチチチチチチチチチチチチチ

フチフチフチフチフチフチフチ

ムチムチムチムチムチムチムチ

ヤチヤチヤチヤチヤチヤチヤチ

リチリチリチリチリチリリチ

チチチチチチチチチチチチチチ

フチフチフチフチフチフチフチ

ムチムチムチムチムチムチムチ

ヤチヤチヤチヤチヤチヤチヤチ

リチリチリチリチリチリリチ

チチチチチチチチチチチチチチ

フチフチフチフチフチフチフチ

ムチムチムチムチムチムチムチ

ヤチヤチヤチヤチヤチヤチヤチ

リチリチリチリチリチリリチ

チチチチチチチチチチチチチチ

内典の経の... 教
明の書便... 教
のめらひ... 教
か... 教
て... 教
... 教
... 教
... 教
... 教

は... 教
... 教
... 教
... 教
... 教
... 教
... 教
... 教
... 教
... 教

世の篇よりしては
あめがたつてきく
いふくはあはれい
らうしりさよあも
らうあはれき音義
あはれあはれあ
あはれあはれあ
あはれあはれあ
あはれあはれあ
あはれあはれあ
あはれあはれあ

あはれ

仙原鉦

あはれあはれあ
あはれあはれあ
あはれあはれあ

あはれあはれあ

右一估之信法中

内府 通考 本 研定 作

石文并案桐 之善胡 合

書字之他生之件也

之乃國學之云云

于時文明六年九月

方終觀

楊家海 陳原 郭長 判

